

令和7年度 学力向上を図るための全体計画

<ul style="list-style-type: none"> ○日本国憲法 教育基本法、学校教育法等関係法規 ○東京都教育委員会の教育目標等 ○大田区長期基本計画 大田区教育委員会教育目標 おおた教育ビジョン 	<p>学校教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ よく考える子 ○ 思いやりのある子 ○ 明るくじょうぶな子 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校地域の実態：古くからの商店街、住宅地 今年度、学校創立 89 周年 ○ 地域・保護者の期待や願い：安全・安心な学校：基礎学力の定着と心身の健全な育成 ○ 期待される児童像：基礎学力を身に付け、思いやりのある児童
---	--	---

各教科の指導の重点

- ・基礎基本を徹底する。
- ・思考力、判断力を鍛え、豊かな表現力を身に付けさせる。
- ・一部教科担任制
- ・児童主体の学び-授業の中で交流の場を意図的に設ける。
- ・授業内の振り返りや日記・作文指導を通して書く力を向上させる。

外国語活動の指導の重点

- ・1年生から英語に親しむ
- ・3年生以上は英語に慣れ、コミュニケーション能力を培う。

総合的な学習の時間指導の重点

- ・地域環境を生かした教育活動
- ・地域福祉活動推進
- ・ICTを活用した教育
- ・地域人材を活用する。

進路指導の重点

- ・自分の未来に夢をもたせる。
- ・学年に応じた望ましい生き方を育む。
- ・蓮沼中学校との連携
- ・特別支援教室との連携

おなづか小学校が目指す学校像

- ・「明日も行こう」と思える楽しい学校「分かった！できた！一緒に頑張れた！」
 - ↳ <授業が楽しい>分かる授業・学習意欲がわく工夫された授業
 - <運動が楽しい>「できた！」の実感がもてる授業・遊びの要素から技能の習得
 - <学校での生活が楽しい>良好な人間関係・やりがいのある活動・認められる自分
- ・「チームおなづか」として、全教職員・保護者・地域全体で児童を育成する学校

道徳教育の指導の重点

豊かな心の育成

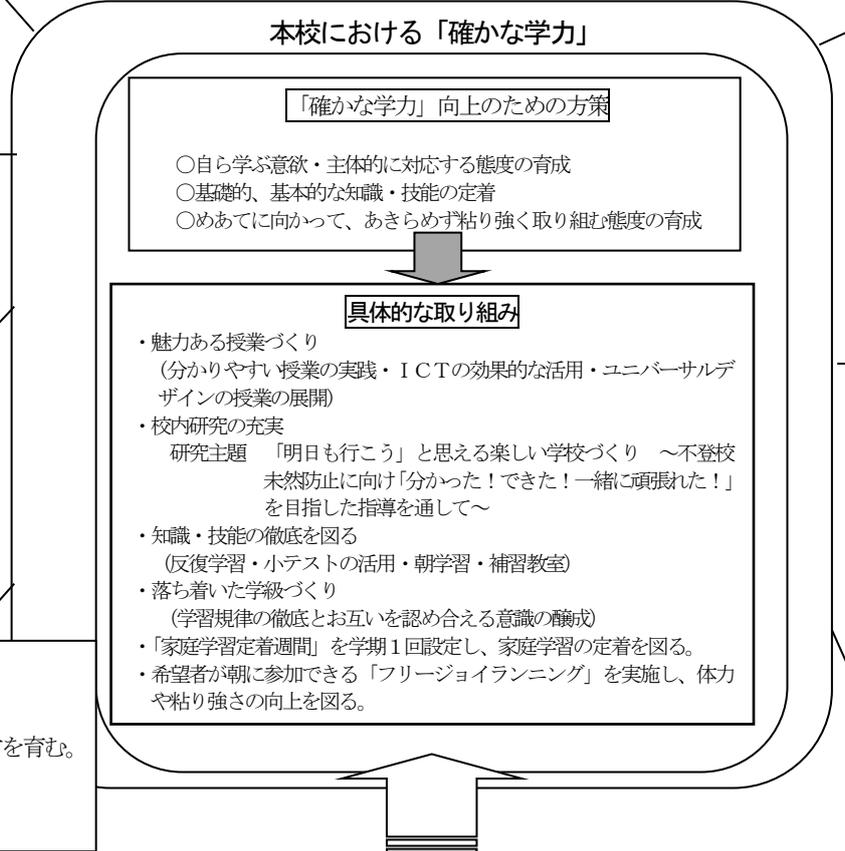
- ・自分理解を深め、自己有用感を培う。
- ・自他の尊重
- ・規範意識の向上
- ・思いやりと協力する態度
- ・地域に貢献する意欲と態度の育成

特別活動の指導の重点

- ・児童の主体的な活動を重視する。
- ・多様な集団活動を通して、支え合い、高め合う集団にしていく。
- ・認め合い、協力する体験を通して自己有用感を育てる。
- ・全学年共通の掲示物を活用し、系統的な指導を行っている。
- ・教員研修会を行い、全教員が共通理解をもって学級会の指導を行う。

生活指導の重点

- ・「返事・挨拶、後始末」等の基本的な生活習慣
- ・集団の中でのルールのご理解と実践の徹底
- ・命、友達を大切にする。
- ・規範意識を育てる。



本校の授業改善にむけた視点

指導内容・方法などの工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習活動や問題解決的な活動を重視し、学習への意欲や関心を高め、自ら考え、調べ、表現する力の育成を図るとともに言語活動の充実を図る。 ・交流など、児童相互の学び合いの場面を設定し、図や言葉で自分の考えを表現、説明させて、よりよい考えに気付かせる。 ・一部教科担任制により教材研究を深め、効率のよい指導を目指す。 ・単元末のワークテストを「教員の指導の成果」と捉え、60点以下の児童に補習を行い、80点を目指して再チャレンジさせる。 ・授業や単元ごとに身に付いた力について振り返りを書いたり、家庭学習で日記・作文に取り組んだりすることを通して、書く力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・T・Tや少人数指導、教員の特性を生かした交換授業等を行い、こども一人一人の能力や個性に応じた指導に努め、基礎基本の定着を図る。 ・問題解決のプロセスを重視し、一人一人の自力解決や児童相互の交流を通し、思考力・判断力・表現力を育てる。 ・学習効果測定や都の学力向上調査の検証を行い、授業改善推進プランを生かした実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究を通して、児童の自己肯定感や自己有用感を育む。学級や学校内で自分の役割を意識させた活動を意図的・計画的に行う。(係活動・話し合い活動・委員会活動・縦割り活動など) ・教員のICT活用能力の向上を目指して、年に3回の校内研修と校内OJT研修の充実を図る。 ・特別支援教育の教員によるOJT研修の充実。配慮を必要とする児童への指導方法や対応方法を、通常の学級のユニバーサルデザインの授業に生かしていく。 ・2学期以降の指導をさらに充実させるため、夏季休業期間にOJT研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導展開に応じた評価場面を設定する。 ・具体的評価目標の設定 ・学校公開のアンケートの記述式部分を反省し、検討した結果を職員会議で共有し、反省をもとに授業改善していく。 ・区などの学力調査結果を学校運営協議会に報告し、学力向上のための意見を求めて、改善策を講じ、保護者に知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部「スクールサポート おなづか」を立ち上げ、地域の方の協力を得て活動を進めている。 (①バイオリン教室 ②夏わくイベント ③子ども見守り隊 ④お話の会など) ・「返事・挨拶・後始末」、「早寝、早起き、朝ごはん」、「家庭学習定着週間」を設け、全教職員で取り組む。 ・民生児童委員会の方との情報交換会を設け、地域と連携し、児童の健全育成を図る。 ・子ども家庭支援センターとのケース会議の充実を図る。 ・PTA主催の行事を夏季休業期間に行い、地域や家庭とのつながりを深めていく。 ・年2回(夏・冬)の個人面談を行い、児童の状況を保護者と共有する。

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立おなづか小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・低学年…筆順や「とめ」「はね」「はらい」「おれ」「まがり」・字のバランスについて丁寧に指導することで、基本的な漢字を書く力を習得させることができた。音読の時間を確保し、基本的な文章の内容について読み取らせることができた。
- ・中学年…基本的な漢字を書く力を習得させることができた。物語文や説明文について、文章全体の組み立てを捉えさせることで、基本的な文章理解につなげることができた。
- ・高学年…基本的な漢字を書く力を習得させることができた。物語文や説明文について、展開や構成を捉えさせることで、基本的な文章理解につなげることができた。

(2) 課題

- ・低学年…書くことに課題がある。各教科学習の振り返りなどにおいて、日頃から簡単な文章を読んだり書いたりする経験を積み重ねさせたい。
- ・中学年…書くことに課題がある。各教科学習の振り返りなどにおいて、日頃から文章を読んだり書いたりする経験を積み重ねさせたい。
- ・高学年…言葉の特徴や使い方に関する事項・書くことに課題がある。教科書に出てくる基本的な言葉の使い方を扱ったり、目的に応じた文章を書かせたりしたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	6領域中2領域で目標値を下回った。 情報の扱い方に関する事項・書くことに課題がある。		
第5学年	6領域中4領域で目標値を下回った。 言葉の特徴や使い方に関する事項・情報の扱い方に関する事項・我が国の言語文化に関する事項・書くことに課題がある。	6領域中4領域で目標値を下回った。 漢字の読み・物語や説明文の内容読み取り・スピーチ、文章を書くことに課題がある。	
第6学年	6領域中2領域で目標値を下回った。 言葉の特徴や使い方に関する事項・書くことに課題がある。	6領域中3領域で目標値を下回った。 言葉・物語や説明文の内容読み取り・文章を書くことに課題がある。	全体的に目標値を下回っている。漢字を書くことや文章を書くことについて課題がある。

(2) 分析（観点別）

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的なひらがな・漢字は一定の習得が見られるが、引き続き繰り返し復習させていく必要がある。	文章を書く力に課題がある。 生活経験と結び付けながら、書くことに慣れさせる必要がある。	

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を1ポイント上回っている。言葉の学習にやや課題がある。	目標値を3.1ポイント上回っている。物語や説明文の内容読み取りはそれぞれ10ポイントほど上回っているのに対し、文章を書くことは5ポイント下回った。	

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年生：目標値を3ポイント下回っている。漢字を書く・言葉の学習・調べたことをもとに文章を書くことにやや課題がある。 6年生：目標値を1ポイント下回っている。漢字を読む・言葉の学習に課題がある。	5年生：目標値を0.6ポイント上回っている。調べたことをもとに文章を書くことは9ポイント下回った。 6年生：目標値を0.9ポイント下回っている。報告する文章を書くこと・文章を書くことに課題がある。	

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 漢字について、筆順や「とめ」「はね」「はらい」「おれ」「まがり」・字のバランスについて指導する。 音読や読書の時間を十分に確保することで、言葉や文章に触れる機会を増やし、正しい言葉の使い方を身に付けさせる。 視写などを通して漢字を含む文章を書くことに慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 動作化をさせるなどして、言葉や文章の意味を体験的に捉えられるようにする。 事柄の順序を押さえながら、文章を正しく読み取ることができるようにする。 学習の振り返りなど、簡単な文章を書くことに取り組ませ、自分の考えや思いを表現することに慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアで自分の考えを伝え合う場面を設定し、主体的に学習に向かう意識をもたせる。 図書館を活用し、すすんで読書をする習慣を身に付けさせる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 漢字について、筆順など授業で扱い、また、復習の時間を確保することで、習熟を図る。 言葉の特徴や使い方について、国語辞典を活用するなど、確実に意味を押さえさせる。 音読を十分にさせることで、文章の正しい理解につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語文や説明文について、文章の内容の中心を捉えさせるようにする。また、段落ごとの内容のまとまりや、段落相互の関係に気付かせ、文章全体の組み立てを捉えられるようにする。 「初め・中・終わり」の構成に気を付けて、文章を書かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループで自分の考えを伝え合う場面を設定し、主体的に学習に向かう意識をもたせる。 図書館を活用し、すすんで様々な分野の本に触れる習慣を身に付けさせる。

	<ul style="list-style-type: none"> 学習の振り返りなど、文章を書くことに取り組みせ、自分の考えや思いを表現することに慣れさせる。 	
--	--	--

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きについて、教科書の内容は確実に押さえるようにする。 分からない言葉は国語辞典やインターネットで調べる習慣を身に付けさせ、言葉の意味について確実に押さえさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語文や説明文では、叙述を基にしたたり、段落同士の関係に注目したりして、内容を正しく読み取らせるようにする。 学習の振り返りなど、文章を書くことに取り組みせ、自分の考えや思いを表現することに慣れさせる。また、テーマや目的に応じた文章を書く場面を設定し、書くことに慣れさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループ、学級全体で自分の考えを伝え合う場面を設定し、主体的に学習に向かう意識をもたせる。 図書館を活用し、すすんで様々な分野の本に触れる習慣を身に付けさせる。また、興味をもった物事についてすすんで調べる習慣を身に付けさせる。

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立おなづか小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・社会科見学や水道キャラバン、スーパーマーケット見学・工場見学などの体験学習を行ったことで、児童が興味や関心をもって学習している。
- ・4年生の「店ではたらく人」、「先人の働き」は、目標値に達することができた。体験学習を行ったことで興味関心が高まり、理解につながったと思われる。5年生の「防災—地震」「先人の働き」は、目標値に達することができた。日々の授業改善や教材研究の成果が表れたのではないと思われる。

(2) 課題

- ・6年生の、正答率が目標値に大きく達していない設問は、「世界の中の国土」「日本の食料生産」「情報産業」である。日本国内の山脈や平野、諸外国の位置等を含めた基本的な知識や用語の定着率を上げる必要がある。どの学年も、自分たちの生活と距離がある（身近ではない）内容の定着が低い。
- ・どの学年も複数の資料を読み取って判断したり、内容を記述したりする問題に課題がある。
- ・4年生の無解答率が高めなので、授業で考えを書く指導を充実させる必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好である。基礎、活用等の項目すべてにおいて、区の平均と同程度である。		
第5学年	全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好である。基礎、活用等の項目すべてにおいて、区の平均と同程度である。	全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好である。基礎、活用等の項目すべてにおいて、区の平均と同程度である。	
第6学年	全体的に目標値を下回っている。基礎、活用等の項目すべてにおいて、区の平均を下回っている。	全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好である。基礎、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度は、区平均と同程度であるが、活用は若干下回る。	全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好である。「ごみのしよりと利用」や「特色ある地域の様子」の正解率が高い。「都道府県の様子」に課題がある。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率は、目標値とほぼ同程度であるが、「市の様子の移り変わり」の正答率が目標値に達していない。地図記号を含めた地図の読み取りに課題がある。	校内平均正答率は目標値とほぼ同程度である。資料の細かい部分を読み取り、条件や工夫を見付けて回答する問題につまずきがある。	校内平均正答率は、目標値と同程度である。記述問題は、平均程度の正答率である。しかし、他学年と比較して、無解答率が高い。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>5年：校内平均正答率は目標値と同程度である問題が多い。「自然災害から暮らしを守る働き」はよく理解している。「生活環境を支える活動」については、わずかであるが課題が見られた。</p> <p>6年：校内平均正答率は目標値を下回っているが、中でも「産業と情報との関わり」の定着が課題である。また、「国土の自然の様子」「農業や水産業」も課題である。</p> <p>自分の生活と離れていること（身近ではないこと）についての知識定着に課題があると考えられる。</p>	<p>5年：校内平均正答率は目標値と同程度であるが、複数の資料を組み合わせる回答を導き出すタイプの問題にまずく児童が多い。</p> <p>6年：校内平均正答率は目標値を下回っている。</p> <p>資料を適切に読み取ったり、複数の資料を見比べたりして記述することに課題がある。</p>	<p>5年：校内平均正答率は目標値と同程度であり、「都道府県の様子」「特色ある地域の様子」は目標値に迫っている。</p> <p>6年：校内平均正答率は目標値を下回っているが、中でも複数の資料を読み取り記述する問題に課題がある。</p> <p>どちらの学年とも、単に暗記させるのではなく、資料から読み取ったことと自分の考えを比べさせる等の授業を充実させる必要があると思われる。</p>

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学年から地図帳を活用し、地図記号や等高線、方位の指導を徹底し、覚えさせるようにする。また地図、グラフ資料の読み取りを重点的に指導する。 ・ 問題の形式として、複数の選択肢の中から、正しいものを選ぶ問題にまずきがあるので、学習した知識を活用し、問題解決をしたり、自分の考えと比べたりする学習を取り入れたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラフや表を読み取る学習は今後も継続して学習活動に取り入れる。 ・ 学習終わりや単元終わりにキーワードを提示したり例文と一緒に考えたりしながら、まとめを自力で書けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会科見学、工場・スーパーマーケット見学等体験学習を行い、興味や関心を高める。 ・ ICTを活用して映像や写真資料を効果的に活用し、関心意欲を高める。 ・ より一層実感を伴って理解させるために、ふだんの生活と学習のつながりを意識させる活動を取り入れる。 ・ 無解答率が高いため、ふだんの授業でも、少しでも考えを書かせる指導を繰り返す。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な用語のうち、生活の中であまり使わない馴染みの薄い用語の定着に課題がある。学習のまとめにおいて学習した用語を使った文章を書く活動を取り入れ、活用させることで、定着を目指す。 ・ 地図資料を積極的に活用した学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラフや表、写真、年表等複数の資料を比べ、共通点や相違点を考えたり、正しい選択肢を選んだりする学習を継続して取り入れる。 ・ 学習終わりや単元の終わりに、学習して分かったことを文章で表したり、説明したりする活動を取り入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを活用し、映像や写真資料を効果的に使わせるようにする。 ・ 資料から分かったことや気付いたことを表現する活動を繰り返す。 ・ タブレットを活用して意見を共有したり、学習感想にコメントを付け合ったりする活動を取り入れ、多様

<ul style="list-style-type: none">• ICT 機器等を活用し、都道府県・日本や諸外国の位置の定着を図ったり、家庭学習で繰り返し習熟を図ったりする。	<p>る。その際、学習した社会科の用語を使用させることで、学習で得た知識を活用する力を育てる。</p>	<p>な意見に触れることの面白さを実感させ、主体的に学習に取り組む態度を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none">• 資料から読み取ったことと自分の考えを比べさせる等の授業を充実させる
--	---	---

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立おなづか小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・問題の読み取りを丁寧に行い、具体物操作や簡単な図・線分図・数直線をかくことを習熟に合わせて取り組む中で、自ら課題解決に取り組もうとする児童が増えてきた。
- ・自分なりの考えを发表或し、友達の考えを聞いたり互いの考えを伝え合う学びを通し、自分自身に自信を付け、また、いろいろな考え方が面白さを感じている姿も見られるようになってきた。

(2) 課題

- ・算数に関して苦手意識をもつ児童の中に、整数の基本的な計算が身に付いていない児童がいる。特に、かけ算九九を習得していないために、新しい学習も自力解決や習得が困難で、学習意欲の持続が難しいこともあった
- ・学年が上がるごとに基礎・基本の定着の個人差が見受けられる。既習事項を生かし、新しい学習にも柔軟に活用する力に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	校内平均正答率は、基礎では、目標値をやや上回っている。活用では目標値に対して大きく上回っている。	/	/
第5学年	校内平均正答率は、基礎と活用ともに、目標値を大きく上回っている。また、全体では、前年度の校内平均正答率より、大きく上回っている。	前年度の校内平均正答率に比べると基礎・活用ともに下がっているが、目標値を上回っている。主体的に学習に取り組む態度とデータの活用は、全国平均を下回っている。	/
第6学年	校内平均正答率は、基礎は目標値と同程度だが、活用は目標値を下回っている。	校内平均正答率は、基礎・活用とも前年度を3ポイント上回っているが、目標値とほぼ同程度である。	校内平均正答率は、基礎・活用ともに目標値を下回っている。観点別正答率では、全ての項目で目標値をやや下回っている。

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現
校内平均正答率は、目標値を上回っている。棒グラフを読み取る問題や重さの単位を選択する問題での誤答が多く見られた。	校内平均正答率は目標値を上回っている。適切な重さの物を選択して、理由を説明する問題で誤答が多く見られた。文章題では、問題の内容の把握が難しいところがある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現
校内平均正答率は、5年が目標値を上回っているが、6年は同程度である。5年では、概数、わり算での誤答が多く見られた。6年では、小数のかけ算やわり算、図形の作図問題、割合での誤答が多く見られた。	校内平均正答率は5年が目標値を上回っているが、6年は目標値と同程度である。5年では、割合や角の大きさの求め方を説明する問題で誤答が多かった。6年では、体積の求め方を説明する問題、グラフを読み取って考察する問題で誤答が多かった。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り上がり、繰り下がりのある計算では、答えを出すだけでなく、計算の手順 (思考の過程) の理解も深める。『わけわけさくらんぼ』など、児童に親しみやすい言葉を用いたり、計算の手順を口頭で言う活動・書く活動を取り入れたりする。 ・ 長さや水のかさでは、単位量 (1cm・1m・1ml・1Lなど) を実感させるために、測定の活動を取り入れる。活動はできるだけ個人、または少人数で取り組み、一人ひとりが実際に測定活動の経験を積めるように配慮する。また、既習事項を何度も声に出して話すことで理解の定着を図る。 ・ 時刻や時間については、定着を図るために、日常の中で機会あるごとに取り上げ、慣れ親しむようにする。 ・ 授業開始時の3分間、朝学習を活用し、継続して計算技能の向上や知識の定着に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章問題では、『わかってること』『聞かれていること』に着目し、題意を捉えられるようにする。 ・ 課題解決の見通しを立てたり、筋道を立てて考えたりするために具体物や半具体物を実際に操作することを積極的に取り入れていく。 ・ 見通しをもとに課題解決をする場面では、一人ひとりがじっくり課題に取り組めるよう時間を確保する。 ・ 自分の考えに自信をもったり、他の友達の考えを知ったりするために、ペア学習を取り入れていくことで、説明し合う機会を確保する。 ・ ○や□、△などを用いた簡単な図やアレイ図、テープ図など段階を踏みながら描く経験を計画的に取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい学習にも既習事項をもとに考えられるよう、必要な教具・掲示物を計画的に用意し、提示する。 ・ その時間のめあての達成のためにも、課題を十分吟味し、(数値・内容など) 提示する。 ・ ICTを活用し、視覚的に分かりやすい授業を展開する。 ・ 授業ごと、または単元ごとに「分かった、できた、一緒に頑張れた」という視点で振り返りを行わせて、児童が自分の成長を認知できるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
-------	----------	---------------

<ul style="list-style-type: none"> ・計算の手順については、ノートにまとめるだけでなく、繰り返し口頭で言いながら実際に計算をすることで、手順の徹底を図る。 ・整数の計算能力を身に付けられるように、学年をまたいで継続して指導する。特に、わり算の筆算の問題を朝学習や補習教室、家庭学習等で取り組むことで定着を図る。 ・重さの学習では、単位量を身近なもの（例：1 km→学校から蒲田駅までの道のり 1 g→1 円玉の重さ 1 kg→牛乳パックの重さ）と結び付けてとらえさせることで、量感を養う。 ・面積の単位の換算は1 m²の広さを基に、できるだけ実生活の場面を用いて単位の関係を調べたり、まとめたりして量感を養う。 ・定規、分度器、コンパスを正しく使って、正確に作図できるように手順及び作図におけるポイントを押さえながら指導する。また、習熟に向け作図にかける時間の確保をする。 ・知識・技能の確実な定着を目指し、学習の習熟に合わせ、意図的・計画的に短時間でできるミニテストを実施する。 ・朝学習、補習教室を活用し、継続して計算技能の向上や知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題提示の仕方を工夫し、児童一人一人が問題解決に取り組めるようにする。 ・文章問題では、『分かっていること』『聞かれていること』『答えの単位』に着目し、題意を捉え計算の意味を理解して取り組めるようにする。 ・筋道をたてて考える手立てとして簡単な図や線分図や数直線（比例数直線）を自分でかけるようになることを目指す。実際にかく機会を計画的に設けるとともに、それらを用いて考えることができるようにすることを、段階を追いながら丁寧に指導する。 ・自分の考えがもてるよう、見通しをもたせたり、自力解決のための時間を確保したりする。 ・自分の考えをもとに、互いの考えを出し合って学び合う機会を設定する。 ・180度より大きい角度の測り方やかき方を繰り返し指導し、定着を図る。 ・図や表などの数学的表現を使いながら、説明し合う機会を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学習にも既習事項をもとに考えられるよう、必要な教具・掲示物を計画的に用意し、提示する。整数・小数・分数の計算は系統的に分かる掲示を工夫する。 ・日常場面に関連付けたり、具体物を使ったりして数量や図形についての意味を理解する活動を行い、学ぶ意欲を高める。 ・ICTを活用し、視覚に訴えるような活動を取り入れる。 ・机間指導を充実させ、一人一人の意欲を引き出していく。 ・授業ごと、または単元ごとに「分かった、できた、一緒に頑張れた」という視点で振り返りを行わせて、児童が自分の成長を認知できるようにする。
---	--	---

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・高学年では抽象的な概念が増えるので、立式をしたら、それが何を表しているのかを児童に問うなどして、確認をする。 ・計算の手順については、ノートにまとめるだけでなく、繰り返し口頭で言いながら実際に計算をすることで、手順の徹底を図る。 ・面積や体積などの単位の換算は1 m²や1 m³などを基に、 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題提示の仕方を工夫し、児童一人一人が問題解決に取り組めるようにする。 ・立式をすることができても、それに合った図を考えることが課題である。そのため、筋道立てて考えることを指導する。 ・自分の考えをもとに、互いの考えを出し合って学び合う機会を設定する。 ・数学的な論理的説明ができ 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学習にも既習事項をもとに考えられるよう、必要な教具・掲示物を計画的に用意し、提示する。 ・日常場面に関連付けたり、具体物を使ったりして学ぶ意欲を高める。 ・ICTを活用し、視覚に訴えるような活動を取り入れる。 ・机間指導を充実させ、一人一人の意欲を引き出してい

<p>できるだけ実生活の場面を用いて単位の関係を調べたり、まとめたりして量感を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能の確実な定着を目指し、学習の習熟に合わせ、意図的・計画的に短時間でできるミニテストを実施する。 ・朝学習、補習教室、家庭学習を活用し、継続して計算技能の向上や知識の定着を図る。 ・分数の四則計算に課題が見られる。中でも通分や約分を素早く行うことができるように、倍数と約数の復習を行うことで定着を図る。 	<p>るようにするために、「AならばBである」と説明させる活動を取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図や表などの数学的表現を使いながら、説明する機会を確保する。 	<p>く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業ごと、または単元ごとに「分かった、できた、一緒に頑張れた」という視点で振り返りを行わせて、児童が自分の成長を認知できるようにする。
---	--	--

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立おなづか小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・理科の授業についての夏季研修を基に、問題の立ち上げ方や、実験の見通しのもたせ方を意識しながら指導をすることができた。

(2) 課題

- ・全体的に知識の定着が不十分である。
- ・実験結果から分かることを説明・記述したり、共通点や相違点を見付けたりすることに課題がある。
- ・応用問題で苦戦する傾向が強い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	全体的に目標値を下回っている。その中でも、物質・エネルギーの領域において課題意識がある。	校内平均正答率は、目標値を下回った。 観点別正答率では、活用と思考・判断・表現が目標値を下回っている。	
第5学年	全体的に目標値を上回っている。地球・生命の領域において良い結果が見られ、その中でも生命領域において、良い結果が見られる。	校内平均正答率は、目標値と同程度である。観点別正答率でもすべての項目で目標値と同程度であった。	校内平均正答率は、基礎・活用ともに目標値を下回っている。観点別正答率でもすべての項目で目標値を下回っている。
第6学年	生命・地球の領域に課題意識があり、その中でも生命領域に関して苦手意識がある。	校内平均正答率は、目標値を下回っている。観点別正答率でもすべての項目で目標値を下回っている。	校内平均正答率は、基礎・活用ともに目標値を下回っている。観点別正答率でもすべての項目で目標値を下回っている。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率は、目標値を下回った。風やゴムのはたらきに関して、知識の定着に課題がある。	校内平均正答率は、区と比べると同程度である。道具の扱い方や、結果の推測について課題がある。	校内平均正答率は、目標値と同程度であるが、記述式の問題の正答率が低かった。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率は、第5学年で目標値を上回った。 1年間の動物の様子に関し	校内平均正答率は第5学年では、目標値と同程度。第6学年は、目標値を下回った。	校内平均正答率は、第5学年では目標値と同程度、第6学年では、目標値を下回った。

て、知識の定着に課題がある。 第6学年では、目標値を下回った。どの分野においても知識の定着に課題がある。	記述式の問題の正答率が低かった。	どちらの学年ともに記述式の問題の正答率が低かった。
---	------------------	---------------------------

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・実験は少人数で行い、一人一人が実験道具を使う時間を確保できるようにしたり、知識・技能を身に付けたりできるようにする。 ・実験は、日常生活と関連付け、実感を伴わせるようにする。 ・定期的に理科用語の復習を家庭学習や授業で行うなどして、基本的な知識の定着を図る。 ・ドリルパークなども活用し、理科用語を正しく理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生には、学習の流れやノート書き方を丁寧に指導する。 ・結果と自分の予想を照らし合わせ、振り返る時間を設ける。 ・予想を基にして実験の方法を考えさせたり、結果の見通しをもたせたりすることで、科学的に考える力を付けさせる。 ・考察を交流させることで、記述の仕方を理解させたり、他の人の考えに触れさせたりすることで、思考を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物や昆虫を実際に育て、日々の変化を授業内外で取り上げることで、学習意欲を高める。 ・主体的に探究する態度を育むために、児童とともに学習問題を作る時間を充実させる。 ・日常生活の様子から疑問や気付きをもとに調べたいことを見付ける活動を設ける。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・実験は少人数で行い、一人一人が実験道具を使う時間を確保できるようにしたり、知識・技能を身に付けたりできるようにする。 ・実験は、日常生活と関連付け、実感を伴わせるようにする。 ・考察に書くべき内容を丁寧に指導することで、学んだことを自分の言葉で説明する力を高められるようにする。 ・ドリルパークなども活用し、理科用語を正しく理解できるようにする。 ・ICTなどを活用し、直接見ることができない現象の映像などを見て、原理を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題に対する予想を考える際は、既習内容や生活経験を踏まえて行わせることで、考える力を伸ばしていく。 ・実験の方法を考えるために、予想に立ち返ったり、調べることは何か整理させたりすることで、科学的に考える力を身に付けていく。 ・考察を交流させることで、友達よりよい考えを理解したり、共通点、相違点から妥当な結論を導き出したりすることで、思考を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や映像、実物を用意することで、学習内容に興味をもたせる。 ・主体的に探究する態度を育むために、児童と共に学習問題を作る時間を充実させる。 ・既習の内容が日常生活に生かせることを実感させる。

令和7年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立おなづか小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・一人一人が授業に対して自分の思いや願いがもてるような支援をすることができた。
- ・植物や生き物を観察する中で、児童が視点をもって観察することができた。
- ・園児と実際に関わる活動を通して、相手に思いを寄せ意欲的に活動することができた。また、その中で自分自身の良さに気付いた。
- ・植物や生き物の飼育栽培を通して、命の大切さや生き物に対する愛着心を育てることができた。

(2) 課題

- ・様々な活動を通して、その子なりの気付きはあるが、さらにその気付きを深めるためには、教師の声かけや問いかけが必要である。
- ・「できたこと」「分かったこと」「もっとやってみたいこと」を出し合うことで、児童の思いや願いを尊重した活動の展開が十分にできるようにする。
- ・学習のまとめや発表では一人一台端末を活用するなど、多様な方法で表現できるように工夫する。

2 分析（観点別）

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・生き物について調べたり、世話をする方法を工夫したりしていた。 ・季節により、生き物や自然が変化していく様子など、生活の中で身に付けている知識が少なく、体験が不足している様子が見られた。 ・一人一台端末を都度使用することにより、写真撮影や共有ツールを活用し始めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校探検の活動を通して、身の回りには、みんなで使うものがあることや、自分たちを支える人々がいることに気付いた。 ・動植物を育てる活動を通して、それらが生命をもっていることや、成長していることに気付き、大切にしていこうという思いをもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが育てている動植物が成長してほしいという願いをもって継続的に世話をした。 ・学校探検では、自分からすすんで声を掛けたり、学校を案内したりしようとする姿が見られた。また、案内される側は、目的をもって探検することができた。

3 授業改善のポイント（観点別）

低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・動植物の変化や様子に目を向けさせるよう、意図的に声を掛けるようにする。 ・自分自身や友達のよさに気付かせるために、協働活動を多く取り入れる。 ・具体的な活動や体験を行うにあたり、学校の敷地内でできる教材の開発や校外での学習活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードや紙芝居、模造紙にまとめる、ICTの活用など、多様な方法で表現できるように支援する。 ・伝える相手のことを思い浮かべながら、伝え方を工夫することができるようにする。 ・保護者や地域と連携した活動を計画したり、地域人材を活用し、感謝の気持ちをもったりすることで、地域に愛着をもつことができるようにする。 ・気付いたことを適切に表現できるように、見る視点を全体で共有する。また、他教科の学習と関連させるなどして表現力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の「こうしてみたい。」「もっと、こうしたい。」といった思いや願いを生かした授業展開を行う。 ・2年間を見通して、系統的な指導を行うことで、指導の効果を高める。 ・児童の気付きを見取るために、友達同士で見せ合ったり対話したりする時間を確保する。

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立おなづか小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・合奏や歌唱など、意欲的に表現する児童が増えた。
- ・いろいろな楽器に興味をもち、すすんで演奏する児童が増えた。
- ・ICT機器を活用して、個別最適な学びや協働的な学びができるようになった。

(2) 課題

- ・意欲をもって取り組めるような教材、指導の工夫を行う。
- ・一人一人の技能の差があるので、それに応じた指導が必要である。
- ・児童が思いや意図をもって音楽表現ができるような指導の工夫を行う。

2 分析（観点別）

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・曲に合った歌い方や弾き方を意識している児童が多い。 ・鍵盤ハーモニカでは指使いや指くぐりや指またぎ、同音を連続で弾く際のタンギングでつまずくことがある。 ・曲に合った歌い方や弾き方、リズム打ちを意識している児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の気分を感じ取りながら聴いている。 ・曲に合わせて自由に体を動かしたり、手拍子をしたりしながら音楽を聴く活動に意欲的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に親しもうとする児童が多い。 ・想像したことや表現に対する思いを、自分なりの言葉で表現しようとする児童が多い。

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・正しい運指を意識してリコーダーが吹けるようになってきている。 ・聴く力が育ってきている。 ・強弱記号を正しく理解し、積極的に声を出して歌唱することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を感じ取ったり、感じ取ったことを自分の力で音楽表現したりすることができるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の学習に意欲的に取り組む児童が多い。 ・感じたこと、気付いたことを自分の言葉で相手に伝えようとする児童が多い。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項をもとに、楽器の特徴を生かして演奏しようとしている。 ・正しい音程やリズムで歌うことに苦手意識のある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の構造や音楽を形づくっている要素に気を付けながら、楽曲を聴いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組めるようになった。 ・様々な楽器を選択し、仲間と協力しながら練習しようとする姿勢が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 模奏を多くして、音色、リズム、強弱などに気を付けて、演奏できるようにする。演奏する力を伸ばすため、個人練習や友達と教え合う時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 想像したことや感じ取ったことを言葉で表す活動を設定していく。交流する場を設定し、伝え合うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲の気分や歌詞の気持ちを感じて、言葉や体で表したり友だちと伝え合ったりする活動を、楽しくできるようにする。 ・ 児童の実態や興味関心に応じた教材選択を行う。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ リコーダーを演奏する時の姿勢や指使い、息の使い方を意識させるために、模奏や聴き合いを多く取り入れる。 ・ 児童同士の教え合いの時間をより確保し、技能習得を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聴いて想像したことや感じ取ったことを、言語活動を通して伝え合えるようにする。 ・ 音楽のどこから感じたかを確認し、自分の言葉で表現させることで、楽曲の構造や音楽を形づくっている要素に気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な楽器を使用する教材をさらに扱っていく。 ・ 児童の実態や興味関心に応じた教材選択を行う。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な演奏形態の合奏を経験したり、音楽を聴いたりすることで、表現に対する視野を広げ、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けさせる。 ・ 児童同士の教え合いの時間をより確保し、技能習得を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな種類の楽曲や楽器の音色を聴くことにより、聴く楽しさが感じられるようにする。 ・ 常に聴き手の存在を意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人の意欲を大切に、手だての工夫をする。 ・ 児童の実態や興味関心に応じた教材選択を行う。 ・ 合唱や合奏の機会を多く設けて、学級・学年全体で一つのものをつくる楽しさを感じさせる。

令和7年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立おなづか小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・つくったり表したりする造形活動に興味をもち、意欲的に取り組むことができている。
- ・道具の使い方、扱い方を習得し、表現に生かすことができる児童が増えた。
- ・年間計画に単元（道具の使用や版表現など）の系統性をもたせたことで、既習事項の活用
に結び付け、表現を広げ、深めることにつながった。
- ・図工が「楽しい」「自分で考えて表すことができている」と感じている児童が増えた。
- ・ICTを鑑賞や作品づくりに役立てる機会を増やした。

(2) 課題

- ・思い付いたことを作品に表現するために、自分で考えて工夫すること、失敗した経験から
より良い作品をつくる意欲につなげることが難しい。引き続き、既習事項を生かす題材設
定や、確実な技術指導を通して見通しをもたせ、計画的に作品づくりに取りまわせる必要
がある。
- ・ICTを活用し鑑賞や作品づくりに効果的に役立てる。

2 分析（観点別）

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・素材に触れて感覚を働かせることや、新しい道具の使い方を覚えて作品の幅を広げ、造形的な視点を育むことができる児童が多い。	・材料の使い方を考えたり、活動中に思い付いたことから発想を広げたりしている。 ・教師の助言を受け、自分の作品の良さに気付くとともに、友達作品の良さに気付き、気付きができる児童が多い。	・自分のやりたいこと、表したいものを考え、意欲的に活動に取り組むことができている。 ・自分の作品に愛着をもって活動する姿が見られる。

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・思い付いたことを作品に表そうとすることができる児童が多い。 ・既習事項を活用し、表現の幅を広げたり発想を深めたりしながら作品に取り組むことができる児童が過半数だが、サポートを必要とする児童もある程度見られる。	・材料や題材から教師の助言を受け、豊かに発想する姿が見られる。 ・材料の使い方や表現方法を工夫し、意欲的に活動に取り組む児童が多い。 ・友達作品の良さを見付けることができる児童が多いが、友達の表現を尊重することができない児童もいる。	・材料や道具に積極的に関わり、意欲的に活動することができる児童が多い。 ・楽しみながら豊かに発想し、作品に表そうとしている。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・材料や題材から発想し、表現に向けて既習事項を生かそうとする姿が見られる。	・既習事項や参考作品から、自分の表したいものを見付けようとする姿が見られる。	・材料や道具に関心をもって積極的に活動に取り組み、表現しようとしている。

<ul style="list-style-type: none"> ・道具や材料の使い方を工夫して作品に表すことができる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が感じ、思い付いたことを表現するための手段や技法を考え、工夫して表そうとする様子が増えてきた。 ・友達の作品の良さを積極的に探し、感想を自分の言葉で伝えることができる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つくりたいと思ったものに対して、集中して積極的に取り組むことができる児童が多い。
--	---	---

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・道具の正しい使い方や扱い方をきちんと教え、発想や表現の幅が広がるようにする。 ・材料や道具の使い方や扱い方、特性をしっかりと教え、基礎基本を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で、活動内容を板書や実物を活用しながら丁寧に伝え、児童が確実に理解してイメージ化させてから、活動に取り組ませるようにする。自分で考え、工夫して表すよう声掛けをする。 ・自分の作品も友達の作品も大切にすることを図工のルールとして毎回提示する。 ・板書を簡潔にまとめ、活動内容や作業手順が理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が活動中に肯定的な声掛けを行うことや、鑑賞の時間に児童同士が互いの作品を認め合う発言をするよう促すことで、作品づくりを通じた成功経験や達成感を味わい、表現する楽しさを実感できるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・安全指導を徹底しつつ、より適切な道具の使い方、材料の扱い方を定着させる。表現に合わせて工夫できるようにする。 ・自分が表したいものに合わせて材料や道具を自分で選択できるような題材設定や声掛けを行う。 ・既習事項を丁寧に振り返り、作品を通して、表したいものを伝える工夫ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容の板書を工夫したり、実物を活用したりして、児童が確実に理解してから、活動に取り組ませるようにする。その上で、自分のつくりたいものを考え、工夫できるようにする。 ・鑑賞の時間に、友達の作品の良いところを見付け、児童同士で温かい言葉で表現できるように、表現の仕方を共有する機会をつくる。 ・自分の発想や表現方法の幅を広げるよう鑑賞のポイントを具体的に伝え、作品の見方を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つくりたいものが技術的に難しいと感じた時、粘り強く取り組むことができる児童が少ない。作品完成に向けて、つくりたいものを考え、見通しをもって計画的に粘り強く作業ができるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・道具の正しい使い方を定着させる、繰り返し経験させ、作品づくりに活用できるような年間計画を組む。</p> <p>・児童が自分の表したいことに合わせて習得した技能を生かし、働かせることができるよう技術指導を徹底して行う。表現に幅をもたせ、作品に生かすことができるようにする。</p>	<p>・造形遊びの活動を通して思い付いたことを表現する楽しさを知る。</p> <p>・既習の学習経験を生かして課題に取り組み、自分の活動や表現に価値付けをしながら活動に取り組むようにする。</p> <p>・鑑賞を通して、自分や友達の作品のよさを見付け、言葉で表現させて互いに伝え合う機会をつくる。</p>	<p>・使いたい材料や道具を自分で選び、表現に生かす。</p> <p>・参考作品の例示や ICT を活用し、表現の引き出しを増やす。表現に向かって発想を深めることに役立てる。</p>

令和7年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立おなづか小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・各単元の導入時には、家庭での日常生活を振り返ったり、家族が毎日取り組んでいる家庭の仕事を調べたりすることで、自らの生活場面についての疑問・課題をもたせた。これにより、家庭生活づくりへ参画していることとする意識を高めることができ、理解の深まりにもつなげられた。
- ・計画的に調理実習を行った。そして、家庭での宿題の「実生活で生かす」経験へとつなげられた。
- ・計画的に裁縫実習を行った。5 学年では「ソーイングはじめの一步」で、糸を適切な長さで切り、針に糸を通す裁縫の基本操作をスムーズに行えるようになった。また、玉結び、玉どめ、なみぬい、返し縫い、かがり縫いの針と糸での運針についても全員が出来栄えにも気を配って身に付けることができた。6 学年では、「クリーン作戦で快適に」でアクリルたわしを製作し、工夫しながら丁寧に仕上げることができた。

(2) 課題

- ・「生活をよりよく工夫する」という意識はまだ十分ではない。実生活の中での継続的な実践を通して、創意工夫しようとする力を身に付けてよりよい生活を営もうとすることが課題である。そのためにも、日々の生活を見つめ、見直すことができるようにすることを出発点とし、「実生活で生かす」ことを目指していく必要がある。また、家の仕事の量や家の負担を実感するために保護者に家での様子を聞く機会をもつような保護者への働きかけを行い、児童の意欲の継続を図る。

2 分析（観点別）

① 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識や事実を正しく獲得する面白さを感じ、理解もしっかりできるようになった。各種の資料や情報を自ら得たり、読み取ったりする活動を多く取り入れる必要がある。</p> <p>○家庭生活での実践経験の差が大きい。授業が初めての経験となる児童も多いので基本を丁寧に指導する必要がある。</p>	<p>○家庭科学習を通して、自分自身が家庭生活を創造していく一員であることを自覚し始めたと言える。友達の活動の進め方や作品から学び合い、工夫へとつなげている児童の姿も見られる。</p>	<p>○全体的に関心をもって取り組み、実習への意欲は高い。しかし、実生活への計画的な取り組みに対しては活動の継続が不十分である。自分の生活の中で実践・継続する態度の形成が課題である。</p> <p>○技能面での差が大きく、細かい作業を継続的、主体的に取り組めない児童の姿が見られた。</p>

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○縫い物では、ICTを活用し、玉止め、玉結び、縫い方など手順がよく分かるよう、実際にやっているところを電子黒板に大きく映す。</p> <p>○家庭との連携を深め、継続的な活動の場作りをする。</p> <p>○学校地域協働本部や保護者のボランティアに協力を要請して、定着を図りたい技能習得や、安全の確保に努め、基礎技能を高める。</p> <p>○食事の役割や栄養を考えた食事の取り方、調理などの学習を重視する。</p>	<p>○言葉や図表を用いて、生活をよりよくする方法を考えたり、実習で体験したことをまとめたり、発表したりする表現活動をより充実させる。</p> <p>○調理や裁縫の実習を伴う単元では、生活場面を想起させて課題を見つけて話し合いの機会をもたせたり、生活に必要な物を工夫する視点で自分のアイデアを作品に取り入れたりするなどの問題解決型の学習を行っていく。</p> <p>○「実生活で生かす」ことを目指し、学んだこと実践する課題を長期休</p>	<p>○手、身体、知恵を使って、「つくる楽しさ」・「できる喜び」を知り、「家族に喜んでもらえる」うれしさを十分に感じ取れるようにする。紹介や発表の活動を通して自分ができたことを自認するとともに、友達との学び合いを生かし、一人でできることを広げさせる。</p> <p>○調理実習や製作活動の体験的な学習を通して、手作りの良さや楽しさを実感させ、児童が物を大切にしたり、食事など家庭生活の中で感謝の気持</p>

<p>食育の観点からも五大栄養素の基礎的事項についておさえる。実習したことは、家庭でも実践し、家庭生活を大切にすることを育む。</p>	<p>業中に出す。</p>	<p>ちをもったりできるような授業を展開する。 ○製作活動では、作業の順序、作業時間、工夫するところなど児童一人一人に応じためあてをもたせる。</p>
---	---------------	---

令和7年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立おなづか小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・友達の見つけ方を発表したり、教え合ったり（手伝ったり）する活動を取り入れることができるようになったことで、運動ポイントの理解がすすんだり、運動への意欲の高まりが見られるようになった。
- ・改善プランで示したことで、授業での運動時間・運動量の確保ができるようになってきた。
- ・1時間2単元の学習計画を取り入れたことで、スモールステップの実践を行うことができ、技能の向上につながった。

(2) 課題

- ・ICTを活用した授業が十分とはいえないので、校内研修を行ったり活用例を示したりする必要がある。
- ・成果として表れている点もあるが、スモールステップの実践を行う際、運動の系統性をもたせて6年間を見通した指導を継続する必要がある。
- ・暑さで体育授業の回数が制限されるため、1学期後半から2学期前半までの、年間指導計画を再考する必要がある。

2 分析(観点別)

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○健康や安全に気を付けて過ごすためには、どのようにしたらよいかなど、全体で知識を共有する様子が見られた。	○友達の見つけ方を発表することで、運動のポイントについて思考、表現する姿が見られた。 ○教師の提示した運動のポイントを基に、友達の見つけ方を発表したり、友達同士で教え合ったりすることで、技能を向上しようとする様子が見られる。	○スモールステップで学習計画を立てることで、運動が苦手な児童もすすんで学習に参加する姿が見られた。

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○友達同士で教え合い、技能を向上しようとする様子が見られる。 ○補助をし合いながら運動に取り組むことで、新たな技能を獲得することができた。	○すすんで運動に取り組む児童が多く、考えながら運動に取り組もうとする児童も多い。 ○友達の見つけ方を見ることで、思考しながら運動に取り組む姿が見られた。	○児童の関心・意欲・態度は高い。苦手意識をもっている児童もすすんで参加する姿が見られる。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○日常の運動経験・運動量の差が表れている。体力テストの結果が上位の児童は、日常の運動時間が多く、多くの単元で活躍することが多い。	○技能向上や自分のめあてを立てることについては、関心が高い。ニュースポーツなどは、少しずつ理解していくとともに、互いに教え合い、学び合おうとする態度が見られるようになってきた。	○全体的に運動への関心・意欲は高い。苦手意識をもっている児童も、活動の仕方を工夫することですすんで参加する姿が見られている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○具体的な場面を挙げて児童の生活体験と照らし合わせた授業を行い、理解させていく。</p> <p>○褒め合い、教え合いの場を設け、一人一人がよい動きのポイントを知り、技能を向上させていく。</p> <p>○領域ごとに学年の到達目標を明らかにして、6年間を見通した指導ができるようにする。</p>	<p>○指導内容を明確にし、運動の特性に応じた指導を行うために易しい運動遊びをしっかりと行う。</p> <p>○友達の運動を観察させる際には、事前に運動のポイントを示しておき、知識を基に思考・判断・表現ができるようにする。</p> <p>○運動の場や用具を変えながら自分なりの工夫を見付け、課題に取り組むことを大切にしていける。</p>	<p>○易しい運動遊びや易しいゲームを通して運動の楽しさを十分に味わわせる。</p> <p>○必要に応じてゲームに得点化を取り入れる。</p> <p>○運動の課題解決を目指すため、意欲が持続するような運動を行える工夫をする。</p> <p>○振り返りカード・ノートに学びを記録し、自身の成長を感じることができるようになる。</p>

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○児童の生活体験と照らし合わせた授業を行い、理解させていく。</p> <p>○具体物を用意し、視覚的・体験的に学習が理解できるようにする。</p> <p>○一人一人が自分の目標や課題を明確にし、技能を高められるようにワークシート等を活用する。</p> <p>○教え合いの場を設け、一人一人の技術を向上させていく。</p> <p>○領域ごとに学年の到達目標を明らかにして、6年間を見通した指導ができるようにする。</p> <p>○健康な生活について、より身近な具体例を用いる。</p>	<p>○自分の課題を見付けて、できるようになるまで努力を続けようとする態度を育てる。</p> <p>○ペアやグループでの学習の場を多くして、互いに運動を見合う時間を設定する。</p> <p>○児童が見つけた運動のコツや工夫したことを伝え合う場や時間を意図的・計画的に設定する。</p> <p>○児童が自分自身の学習を記録し振り返ることができるよう、振り返りカード・ノートを活用する。</p> <p>○指導者がよい動きを紹介したり動画を撮影したりして、児童が自分の動きを客観的に見られるようにする。</p>	<p>○苦手な児童が楽しんで参加できるようにする。</p> <p>○ルールや場の設定を工夫していく。また、児童が自分で選べるようにする。</p> <p>○ゲームでは、得点を取りやすいルールや場を設定し、成功体験を増やして意欲を高めていく。</p> <p>○ゲームでは、児童と一緒にルールを作りながら取り組み、意欲を高めるようにする。</p> <p>○振り返りカード・ノートに学びを記録し、自身の成長を感じることができるようになる。</p>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○児童の実態に合った授業作りを行い、実生活で生かすことができるようにする。</p> <p>○けがの防止について理解させるだけでなく、簡単な手当等の体験学習を行う。</p> <p>○心の発達及び不安や悩みへの対処法について理解を深め、解決したり誰かに相談したりできるようにする。</p> <p>○運動経験の差が大きく影響している実態に対応して、次のことに取り組む。運動が得意な児童から、苦手な児童へ教え合いの学習</p>	<p>○互いに教え合い、学び合おうとする態度を育てる。</p> <p>○集団で課題に取り組める機会を多くする。</p> <p>○児童が工夫した動きをお互いが評価し合える工夫をする。その際の声掛けの仕方の例を指導者から提示したり、児童と考えたりする。</p> <p>○授業の中で、指導者がよい動きの共有化や評価を伝える場面を増やし、児童同士でもお互いに教え合い、アドバイスしやすい環境をつくる。</p>	<p>○楽しさを見出せず、苦手意識が拭えない児童へ、次のことに取り組む。できばえではなく、楽しく行えるような易しい運動の場を設定する。</p> <p>○あまり技能が高くないゲームが楽しめるように、易しいルールやゲームの設定をする。</p> <p>○学年や学級の実態に応じて、下の学年の学習教材に取り組ませる。</p> <p>○運動の楽しさや喜びを味わえるように、自分で考え活動を工夫できるようにする。</p>

<p>の場を設定する。学習カードや体育ノートなどを利用し、一人ひとり目標を定めて取り組むようにさせる。</p> <p>○指導者が小さな課題を段階的に組むことにより、児童の技能を高める工夫をする。そのための資料を作成する。</p> <p>○領域ごとに学年の到達目標を明らかにして、6年間を見通した指導ができるようにする。</p>	<p>○ICTを活用して個人の動きを客観的に見ることできる環境をつくる。</p> <p>○児童が自分自身の学習を記録し振り返ることができるように、振り返りカード・ノートを活用する。</p>	<p>・児童が立てた作戦が成功して得点しやすくなるよう、簡易化したゲームやルールを設定をする。</p> <p>・振り返りカード・ノートに学びを記録し、自身の成長を感じることができるようにする。</p> <p>○ゲーム・ボール運動では、運動が得意な児童も苦手な児童もみんなが楽しめるルールづくりなどを工夫して、みんなが運動に親しみ、誰もが活躍できる場面を作れるようにする。</p>
---	--	---

令和7年度 外国語 授業改善推進プラン

大田区立おなづか小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・友達との英語を使ったコミュニケーションを通して、会話文を使いながら表現できるようになってきた。
- ・自分が生活で使ってみたい表現について考えさせることで、英語の有用性を実感している児童が増えてきた。

(2) 課題

- ・アルファベットの活字体の大文字、小文字が定着していない児童が課題である。
- ・発音をカタカナで記録し、間違っただ発音を覚えてしまう児童がいる。
- ・

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第6学年	全体的に目標値を上回っている、または同程度である。「読むこと」と「回答形式記述」で平均を下回っているものが二つあり、課題がある。	前年度の校内平均正答率に比べると、基礎は4ポイント下回り、活用は15ポイントと大きく下回っている。基礎は目標値を上回っているが、活用は目標値も5ポイント下回っている。	全体的に目標値を上回っている、または同程度である。「アルファベットの書き（聞く）」と「英文の完成」の設問で下回っているものが二つあり、課題がある。

(2) 分析（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率は目標値を上回っている、または同程度である。しかし、アルファベットを聞いて書く記述式の問題については、目標値を下回っている。聞き取れても正しく書けなかったり、四線上の書く位置を間違えたりする児童が多い。	校内平均正答率は目標値を上回っている、または、同程度である。しかし、英単語の知識が定着していなかったり、問題文の状況を読み取れなかったりすることから、英語で文章を正しく書くことができない児童が多い。	

3 授業改善のポイント（観点別）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットの活字体の大文字、小文字を正しく書くことが定着していないことが課題である。第3学年のローマ字指導、第5学年のアルファベット指導を繰り返し行ったり、英単語を書きとったりするような活動を繰り返し取り入れることで、定着を目指すことが必要である。 ・聞いた英文について、その内容を 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した英単語を使って、自分のことや友達のことについて発表させたり、図やイラストをもとに、その状況を英語で説明し合ったりするような学習を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことについて振り返りを行う際に、自分の生活で使える表現、使いたい表現について考えさせるなど、視点を与えることで、英語の有用性を感じられるようにし、主体的に学習に取り組む態度を育成する。 ・休み時間にはALTと英語で

<p>日本語で伝える学習を取り入れ、学習した英単語を聞き取れるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3学年の外国語活動から英語に親しむ機会を取り入れることで、英語を聞き取る力を身に付けさせる。 ・発音をカタカナではなく、発音記号を用いて正しく身に付けさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した英文を用いて、友達と会話する場を設定することにより、会話を理解しながら、表現できる力を育成する。 ・翻訳アプリを使用せずに、英語の教科書や補助資料を活用して英作文をする活動を取り入れる。 	<p>コミュニケーションを図る英語カフェを行い、全学年が外国語に主体的に取り組むことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達やALTと積極的にコミュニケーションを取らせたり、分からないときも諦めずに知っている単語で会話させたりするような指導を第3学年から継続して行う。
---	---	--